

岩手教区報

第374号
立教187年2月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597



主事・祭事部長 鈴木眞理



教祖140年祭三年千日の年祭活動の2年目の本年、元

旦より「能登半島地震」という大きな災害が発生し、多くの人命が失われると共に、壊滅的打撃を受けた地域も多数あります。お亡くなりになられた方々には衷心よりお悔やみ申し上げると共に、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。今、私たちにできる支援は何かを考え行動して参りたいと思います。

さて、祭事部発足以来、教区管内の葬儀の底上げを目指してこれまで「葬儀式勉強会」を、回を重ねて開催して参りました。昨年は二巡目に入りましたので、葬儀の基本ともいえる「みたまうつし」の葬儀式を学ばせて頂きました。特に、近年の葬儀事情と申しますか、葬儀会館などを会場に、椅子席での葬儀が多くなったことを考慮して、立式による葬儀作法を学ばせて頂きました。

今から40年ほど前、私が天理より戻って来た頃の葬儀は、各信者さんの家庭で勤める事が多くありました。そうした事から、祭壇を始め葬儀用品を教会で揃えるようになり、葬儀ができるたびに、その家庭に葬儀用品を運んで勤めさせて頂きました。中には、教会

を会場に依頼されて勤める事もありました。

時が経つにつれ、会場として葬祭会館が充実して来ますと、個人宅で勤める事が少なくなり、そうした会館を利用して勤める事が増えて参りました。また近年は、コロナ禍により大勢で営む葬儀が少なくなり、家族葬として営む事が多くなったことで、家族葬に対応した会場が全国的に増えてきました。しかし、葬儀会館を利用する事によって、相当の費用が発生いたします。大きな葬儀、或いは小規模な家族葬にしても、かかる費用は莫大なものになります。そのような事もあり、最近では教会を会場に依頼されることも増えて参りました。また、岩手教区でも祭壇などの準備が整っているのです、教務支庁を会場に葬儀を執り行うことも可能となっております。

さて、祭事部として昨年に引き続き「葬儀式勉強会」を3月31日に開催させて頂きます。今回は、昨年の「みたまうつし」に引き続き「告別式」の葬儀式を、立式により学ばせて頂きます。どうぞ今から心づもりをして頂き、大勢の方にご参加頂きますようお願い申し上げます。

ようぼくの声

～行事での感想・感話より～

菊田テル子(県南支部・磐井分)

私は、一関で生まれ育ち、生家は大町で履物店を営んでいました。祖父の代からの信仰になります。

昭和47年頃、働いていた東京から一関に帰ってきた私は、磐井分教会のセツ子奥様から勧められるままに、修養科に入らせて頂きました。修養科を修了して一関に戻ってきてからは、毎月の3日、19日、20日と磐井分教会に参拝し、ひのきしんやおつとめにも出させて頂くようになりしました。その頃からちらほらと結婚話がありましたが、持前の性分から決めかねておりました。

検定講習会を受講する時に「おぢばから帰って初めての相手の人と結婚させて頂きます」と、親神様、教祖にお願いさせて頂き、心を定めました。地元に戻ると、気仙沼で染物工場を営んでいた方の

息子さんとの縁談があり、不思議にもお見合いから結婚式まで12日間というまさにスピード婚でした。

結婚して2年目になろうという時、胃の調子が悪くて通院していた船乗りの主人が、ある日の食事の際、突然口が曲がり食べ物飲み込めない状態となり、すぐ病院へ向かいました。病名は脳血栓で、7か月入院しました。この時主人は43才でしたので、お先真つ暗な思いでした。

実家の母に電話すると「今が大事な時、今は細い道でも後々大きい道に出られる」「この場を逃れようとすればもう一つの難が追いかけてくるから、3年は頑張りなさい」と、苦しい思いをしている私にとってはきつい言葉で、母を恨めしく思いました。しかしその後、元氣になった主人を見て、今思えば、母の娘に対しての最高の励ましで、親だからこそ、娘をたすけたいとの思いの言葉であつたと母に感謝しています。

私は、母の姿を通して、親神様、教祖の御教えや陽気ぐらしを感じます。母は、平成15年に88才で出直しましたが、娘の私に、信心という心の宝を残してくれま

した。私も88才までは、母の敷いてくれたレールをゆつくりと歩ませて頂きたいと思います。

婦人会創立110周年「会員決起の集い」感話
於磐井分(令和1年7月14日)

お知らせ

2月に予定されていた青年会「はたらくようぼくのつどい」は中止となりました。

行事予定 【2月分】

- 1日 役員会(10時)
- 3日 バレンタイン献血呼びかけひのきしん道の教職員の集い役員会
- 4日
- 10日 青年会例会(19時)
- 17日 学生担当委員会例会 (19時30分)
- 18日 女子青年例会(10時)
- 29日 少年会例会(12時)

立教187年

本年の活動について



婦人会

主任 鈴木真喜



婦人会成人目標

ひながたをたどり

陽気ぐらしの台となりましょう

婦人会活動方針

教祖140年祭に向かって

育つ努力、育てる丹精に徹しよう

・元なる思召を伝え広めよう

・老いも若きもおたすけの喜びを味わおう

自ら教えを正しく学び、教えを知らない人々に、親神様の元なる思召しを伝えさせていただくことは、教祖140年祭への三年千日の歩みそのものです。

幅広い年齢層の会員の方が、勇んで歩んでいただけるように、教区婦人会での活動を皆様と進めて行きたいと思っています。本年もよろしく願いいたします。

青年会

委員長 村松義朗



青年会基本方針

心を澄ます毎日。

―ほこりを減らし、誠を増やす―

岩手教区青年会では、基本方針を念頭に置きつつ、私自身も含め会員の皆さん全員が喜び勇んで、行事や幸せ拾いなど、青年会活動をしていただけるよう取り組んでいく所存です。また、「参加したい!」そんな青年会を目指します。

教祖140年祭へ向かう三年千日は、一人ひとりが教祖のひながたをたどり、親神様の思いに近づく旬。心を澄ます毎日。本年もどうぞ宜しく願いいたします。

少年会

団長 佐野喜与志



少年会活動方針

教祖のひながたを目標に教えを実践し、子供に信仰のありがたさを伝えよう

重点項目

- ・子供に教祖のお話をしよう
- ・教会おとまり会、教会こども会を実施しよう
- ・地域で少年会ひのきしんを実施しよう

岩手教区団では、昨年同様、こどもおぢばがえり、少年ひのきしん隊本部錬成会への参加を頂点とし、事後の丹精として、わかぎの集い、おつとめ総会を活動の両軸として年祭活動にふさわしい動きとなるよう、一手一つにつとめさせて頂きたいと思っています。

学生担当委員会

委員長 鈴木真浩



学生担当委員会活動方針

教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう

実践項目

- ・教祖のひながたを学び深め、学生に伝えよう
- ・学生のために使う時間を増やそう
- ・学生のおぢばがえりを推進しよう

願います。

記

「バレンタイン献血呼びかけひのきしん」【2月3日】



献血推進委員会

教区献血推進委員会は「バレンタイン

献血呼びかけひのきしん」を実施します。

当日は、各学生赤十字奉仕団やライオンズクラブなどの多彩なボランティア団体の皆さんとともに、プラカードを持って献血を呼びかけます。盛岡支部内はもとより、広くご参加をお願いします。

記

日時 2月3日(土) 10時〜16時半
場所 イオンモール盛岡
連絡先 小笠原敦子委員長
090・5840・3541

「献血推進研修会」【3月1日】

教区献血推進委員会は、献血ひのきしん活動のより一層の充実と発展を期する上から、左記の通り、本年度の研修会を開催します。一人でも多くのご参加をお

日時 3月1日(金) 10時〜11時
場所 教務支庁
講師 増田友之氏(岩手県赤十字血液センター所長)
主旨 血液事業の現状と課題を把握し、献血ひのきしんの推進に役立てる。
※教区役員会に出席する支部長以外に参加を希望される方は、2月29日(木)までに、小笠原委員長(神賀盛)に連絡をお願いします。



立教187年春の学生おぢばがえり

スローガン「次代を担うようばくに」
期日 令和6年3月28日(木)
内容 式典、直属アワー、別席、春フェス(前日行事)
対象 高校生(新1年生含む)、大学生、専門学校生など

二戸支部 5月28日(日) 9人
奥州支部 6月10日(土) 7人
県南支部 6月18日(火) 11人
九戸支部 9月19日(木) 4人



県南支部

昨年5月から9月にかけて、左記の支部有志31人の方々に除草などの外回りひのきしんを勤めて頂きました。